

巻 頭 言

副支部長 深見浩司

(北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所)

2013 年度から、副支部長を仰せつかっております。2009～2011 年度の研究発表会担当の理事を務めた後、1 年間のブランクで、また支部活動のお手伝いをさせて頂いていることになります。この間、2009 年度には、支部の幹事が廃止となり、それぞれの事業担当理事が責任者となって、理事会を中心に支部の事業を遂行する形になりました。そして 2011 年度は、研究発表会を約 1 ヶ月早めて休日を含む 2 日間の開催とし、総会を同時に開催するなど、支部の活動が大きく変わった年でした。これらの支部の改革があって、私のブランク期間の 2012 年度には、雪氷学会が公益社団法人になりました。

2013 年度からの支部活動で感じたことは、公益社団法人化に伴う事情によるのかは定かではありませんが、以前よりも支部の事業予算が厳しく査定されるようになったということです。支部ではこれまでと同様の活動を維持するために、今年度から、地域講演会の開催に外部資金（社会活動助成金など）の導入を検討しました。これにより、昨年度とほぼ同様の支部活動が本部の理事会で承認されました。これまでのところ、応募した外部資金は不採択となったため、地域講演会は緊縮予算で実施せざるを得ない状況ですが、旭川市近郊の東川町において開催される「ひがしかわ氷まつり」にあわせて、2015 年 1 月に実施する予定です。

さて、本年 5 月の研究発表会では 39 件の発表があり、全ての発表を掲載して、このように本誌を発刊することができました。昨年度は、後述する北海道雪氷賞のこともあって、研究発表会での全ての発表を、論文として掲載することを優先したため、発刊が遅れてしまいました。これまでも、発表を全て掲載するため、論文提出期限以降でも受付を延長して発刊していたようです。全ての論文を掲載するために、発刊日が遅れるという問題は、これからも起こりうると思いますが、原稿提出の可否の確認を適切に検討しながら、遅滞なく発刊できるよう心がけていくことになろうかと思います。発表者や関係者のご協力をお願いする次第です。

本誌の投稿論文をもとに選考する北海道雪氷賞（通称、「北の風花賞」）は、2011 年度に創設されました。そして、2013 年度に表彰規定の変更が行われ、北海道雪氷賞は、「北の風花賞」、「北の六華賞」、「北の蛍雪賞」に細分されました。2013 年度の表彰委員だったのですが、「北の蛍雪賞」に関する選考方法については、今後の検討すべき課題となり、対象者を決定し（でき）ませんでした。

以上のように、ここ数年、支部の活動は大きく変わってきております。これまでの伝統を踏襲しつつも、時代に見合った新たな展開は必要と思われます。それに伴い、様々な検討課題が出てくる場合もあります。いずれにせよ、今後の支部活動をより良きものとするためには、支部会員の皆様の忌憚のないご意見や積極的なご協力は欠かせません。今後とも、支部活動へのご支援、よろしくお願いいたします。